

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070100296		
法人名	社会福祉法人 浩和会		
事業所名(ユニット名)	竹の里園		
所在地	和歌山市明王寺3-1		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町村受理日	平成23年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070100296&SCD=320&PCD=30
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成23年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の下、ゆったりと生活して頂き、四季折々の行事を取り入れ、外出にも心掛けています。又、地域住民に開かれた施設作りのため、併設の特養中心に盛大な夏祭りを開催したり、ケアハウスと合同の地域交流会をしている。さらに、地域の他のグループホームとも交流をはかっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はその名にふさわしく竹林やみかん畑に囲まれた静かな環境の中にあり、菜園から収穫された野菜は食卓に色どりを添えている。職員は利用者一人ひとりのペースに合わせた支援に努めており、利用者はゆったりとした気分で日々を過ごしている。事業所では複合施設の利点が活かされ、医療連携や災害時の協力体制が整えられており、利用者は安心して生活を送る事ができる。地域との交流も進められており、法人が催す夏祭りや地域交流会には多くの地域住民の参加があり、地域ぐるみの交流の場となっている。さらに法人施設の避難場所としての提供や訓練時の地元消防団の支援等、地域との双方向の協力体制が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議で考えた事業所独自の理念を施設に掲示し、管理者と職員はその人らしい生活が送れるよう支援している。	法人の理念を土台に、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲げている。管理者と職員は事業理念の理解、共有を図り、日々のケアサービスに反映されているか確認しつつ具体化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中、畑仕事をしている人と会話したり、地域交流会等への参加を呼びかけたりしている。また、地域の老人会主催芸能発表会に参加している。	周辺には田畑が広がっており、散歩時に作業している近隣の方々と挨拶や会話を交わしている。法人が催す夏祭りや地域交流会等には多くの地域住民の参加があり交流の場となっている。又定期的に幼稚園児の訪問を受け交流したり、地域の芸能発表会にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を対象に認知症セミナーを開催し好評であった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催し意見を交換し運営推進会議役員が夏祭り等に参加したり協力を得ている。	2ヶ月に1回開催する運営推進会議には、民生委員、幼稚園長、公民館長等の地域の方々及び市職員、家族代表の出席がある。会議では事業所の取り組みや利用者の状況等を報告し、話し合いを通して得られた意見や提案をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と電話で相談を受ける等、折りにふれ連絡をとるようにしている。	運営推進会議の際や、認定の更新手続時等に事業所の実情や取り組みを説明し、情報の共有に努めている。しかし地域密着型サービスの充実の為に、市担当者等との連携をより一層深める必要があると考えている。	運営推進会議や事務手続の為の訪問時だけでなく、様々な機会を通じて事業所の実情や課題を積極的に伝え、市担当者や地域包括支援センター職員が共に問題解決に取り組む関係づくりを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を置き、職員一同言葉の拘束にも気を付けて、玄関にはチャイムを付けて見守りしている。	事業所には外部研修で資格を取得した身体拘束廃止委員を配置している。法人内の研修委員会が開く身体拘束に関する研修には原則として全職員が参加し認識の共有を図っている。玄関は利用者の状況により施錠する事もあるが、その場合は同伴して散歩する等の代替策をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、学ぶ機会を持っている。又、入浴時には、必ずボディーチェックするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している方がいらっしゃるので、職員も関心を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、家族交流会、運営推進会議の席上で意見を聞いたりして、気軽に話が出来る人間関係を築いており意見箱を設置している。	管理者や職員は、家族への連絡の際や面会時及び家族交流会・運営推進会議等の場で利用者家族の意見、要望を直接聞き取っている。さらに意見箱を設置し、アンケートも実施している。又運営推進会議は家族等が外部者に意見、要望を表す機会となっており、得られた意見等を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議などで意見や提案を聞き、日々話し合いをしている。	代表者や管理者は定例のグループホーム会議で職員の意見や情報を聞き取り、一緒に話し合いながら調整している。又日々のケアサービスの実践の中から得られた職員の気づきやアイデアについては随時話し合いの機会を設け運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れ、職員の向上心を育成し、又、職員の意見にも傾聴するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	4月より特養合同の研修委員会を立ち上げ、2ヶ月に1度職員全員出席の全体研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症支援協会に加入しており、職員交代で勉強会に出席し、その後報告会をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまで、本人及び家族と面接の機会をつくり、趣味や好き嫌い等できるだけ把握し、サービスの開始にそなえている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申請時や入所直前の面接時に家族の要望をしっかりと聞き、入所後のケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、及びその家族にとってグループホームでの生活が最適であるかを家族やケアマネジャーともよく相談し決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯物を干したり料理の手伝いをして頂く等、毎日の生活を通し、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に連絡を取り合い、できるだけ来園していただけるよう協力をお願いしている。又、家族にも参加していただける季節行事(花見、夏祭り、敬老会、家族交流会等)を組み入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の親類や知人との関係が途切れないよう、家族にも協力を依頼しているが時と共に疎遠になっている。	食材等の買い出しには職員が同伴して馴染みの店に出かけている。帰宅や墓参り等の外出については、家族の協力を得て実施している。又定期的に訪問する理容師の方とは馴染みの関係ができており、利用者は訪問を心待ちにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者が話をしたり、一緒に洗濯物をたたんだり、日常生活の中でお互い助けあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退所され、特養に入所された方について、移転先の職員と情報を共有し、直接的、間接的に支援関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護保険更新に伴う介護計画作成時、及び随時本人家族より希望、意向を聞いている。	利用者一人ひとりの日々の言動や表情から思いや意向を汲み取ると共に、家族等への連絡時や面会時に確認するようにしている。把握が困難な場合には職員、家族等で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当グループホーム入所以前に利用していたサービス事業所や医療機関、家族より情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の可能性(能力)を見極め、職員と共にどんな小さな事でも行うよう努めており、状態(情報)を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、又必要に応じ担当者会議をもち本人の希望も踏まえた介護支援の向上に努めている。	面会等の訪問時に本人、家族等の思いや意向を聞き取り、職員全員で検討した上で、主治医等の関係者の意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。現状に即した介護計画とする為モニタリングを通して定期及び随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日別生活記録票を日勤者夜勤者それぞれに記録している。申し送りや記録を読むことで又支援方法や注意点を貼りだし情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族よりの要望を傾聴し理学、作業療法士と連携を図ったり支援方法を提案するなど状況、状態の変化に応じ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉関係(者)などからの情報収集や介護サービス事業者との情報交換を行うなどし夏祭りやミニライブなどへ参加することができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態に応じ、家族と連絡を密に図り、又家族が受診に付き添えない場合などには職員が付き添うなど行っている。	これまでのかかりつけ医を基本としている。本人や家族等の希望に応じて、法人内の診療所や外部の医療機関への受診を支援している。かかりつけ医と事業所の関係を築きながら情報の共有を図っている。緊急時には速やかに法人内診療所で受診できる体制をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の血圧情報を定期的に報告しており常に利用者の体調変化に目を配り、気になる時は看護師に連絡(相談)しアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報を提供したり退院後の支援(ケア)についてアドバイスを受けるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常々家族に小さな出来事でも連絡するよう努めている。そのような機会に様々な情報を伝えると同時に、重度化した場合などに対して家族の意向を聞いている。	重度化した場合や終末期のあり方については契約時に本人・家族等と話し合うと共に、状況の変化に応じてその都度話し合い意向を確認している。看取りについてはかかりつけ医、看護師等の関係者とチームで支援した事例があり、今後も本人、家族等の意向にそって取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に職場(チーム)単位で研修の機会を設けており様々な情報を職場(チーム)全体で共有している。又事故発生時には必ず振り返りを行い次に繋げるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に消防署職員同席の下、避難訓練を職員が受講し、内容を他の職員にも伝えている。又、他部署や地域の消防団との協力体制もできている。	利用者も参加してホーム独自の避難訓練を定期的に行っており、管轄する消防署員の立ち会い及び地元の消防団の協力を受けての実施となっている。又法人施設を地域の避難場所として提供し、必要物品の備蓄を進める等地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その人の立場にたった思いやりある言葉かけをし対応している。	職員が利用者に言葉をかける際に、内容や語調が利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものにならないように留意している。守り通す事が難しい事項であり、事業所全体で日常的な確認と改善に取り組んでいる。又個人情報についても責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やおやつメニューを一緒に考えたり、着る洋服を出来るだけ自己決定して頂ける様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿った支援をしたいと思っているが、実際に一人一人のペースに合わせる事が難しい時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に2ヶ月に一度来ていただき、カットなどしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ利用者と職員と一緒に準備、片づけするようにしている。	その日のメニューは利用者と職員が相談して決めており、菜園で収穫した野菜を加えて、調理、盛り付け、後片づけを利用者と共に行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲んでの楽しい食事風景であり、誕生日の恒例となっている鯛と手作りケーキは食卓を大いに盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を付け一人一人の水分量を把握し少ない方には必要に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎朝、紅茶うがいと就寝前の義歯洗浄を励行している。ご自分でできない利用者には毎食後、口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便チェック表に記録し、一人一人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を支援する事を原則としている。排泄の失敗から生じるダメージを防ぐ為一人ひとりの力に応じて、リハビリパンツ、パッド、ポータブルトイレ等を補助的に利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜を多く使うよう心がけ、粉の植物繊維を飲み物に入れたり水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来る体制であり、希望を聞いてゆっくり入浴を楽しめるよう支援している。	午後には毎日入浴できる体制をとっており、一人ひとりの希望に合わせて入浴を楽しめるように支援しているが、入浴を好まない傾向が多くみられる。職員は利用者の思いの理解に努め、無理強いする事なく、対応に工夫しながら入浴支援を試みている。また、家族等に協力を依頼する事もあり、工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人自由に、リビングのソファでくつろいだり、居室で昼寝をしている。また、夜もゆっくりやすまれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとの投薬一覧表を作成しており、職員はいつでもそれを見ることが出来る。薬は日付、個人ごとに分けて職員が管理し、服薬介助見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物等出来る方には手伝って頂き、自由に過ごしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力的に困難になってきている方もおられ、希望にそっては支援できていないがドライブや外食、散歩に出かけている。	利用者の希望と体力を勘案しながら、敷地内や近くの公園への散歩、食材等の買い出し、ドライブ、外食等に出かけている。又家族等の協力を得て、帰宅や墓参り等の外出が実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を理解して管理出来る人はいない為、スタッフが管理しお預かりしている。買い物等一緒に行ったとき、支払いしてもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症が進行し、電話をかけられない方もいらっしゃるが、いつでも、スタッフルームから電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間が明るく広い。空気の入換え、エアコンの調節等スタッフが気を配り、居心地よく過ごせるよう心掛けている。	廊下やホールには季節の花や利用者の作品が適度に飾られ、家具の配置も居心地よく過ごせるように工夫されている。又音、光、温度等の五感刺激についても全職員が日常的に注意を払い、利用者が多くの時間を安心して過ごせる共用空間となるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングがあり、気のあった利用者同士で自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に家具などを置いていただき、個人のテレビを見て過ごされる時間も尊重している。	タンスや写真、人形等の馴染みの物や思い出の品が持ち込まれ、その人らしく落ち着いて過ごせる居室となっている。又備えられたテーブルや椅子は利用者同士の交流や家族、知人との歓談の場を提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物は安全の為、室内で利用者と一緒に干し、外に出すようにしている。トイレの場所はよくわかるよう表示している。		